



ジェイコー

JCHO

北海道病院だより

No.09



「認知症看護認定看護師
による認知症予防教室」
平成28年1月21日(木)開催

病院理念

地域の人々を中心にした質の高い医療・介護を提供し、
地域から信頼される病院になります。

基本方針

- 1.一人一人の権利を尊重し、人間愛を基調とした医療・介護を行います。
- 2.安全を第一に説明と同意に基づく医療・介護を行います。
- 3.地域との連携を推進し、求められる医療・介護を行います。
- 4.地域の健康増進をめざし、保健予防活動を推進します。
- 5.地域医療機能の推進をもって医療・医学の発展に貢献します。



地域連携相談室について

ジェイコー
JCHO北海道病院 副院長 広瀬 崇興

当院が北海道社会保険病院からジェイコー北海道病院に改称され丸2年になりました。少子超高齢化社会が目前に迫り、厚生労働省は「地域包括ケアシステムの構築」と称して、2025年を目標に在宅・医療・介護・予防・生活支援の連携を強化し、地域での包括的な支援とサービスの提供体制を構築しようとしております。その中の一部として病院や診療所などの医療施設では介護施設、在宅、地域包括支援センターなどとの連携が重要視されるようになりました。

これらの連携をよりスムーズにする目的で当院の「地域連携相談室」があります。

具体的な活動としては診療所等から当院への急性疾患患者の治療や検査の受け入れの連携（前方連携）を行ったり、また治療終了後の診療所や介護施設への紹介のための連携、在宅退院への連携（後方連携）などが主体となります。

平成27年度の当地域連携相談室が係った実績ですが、当相談室を経由された外来・入院・検査の総件数は4,438件でした。科別では心臓内科が最も多く1,086件、続いて消化器内科が768件、呼吸器内科が544件、耳鼻咽喉科が486件と続きました。

利用診療所の地域別では、豊平区と南区からが多く、中央区が続きます。

一方、当相談室を経由せず直接患者さんが紹介状を持参した件数は3,637件でした。その科別では耳鼻咽喉科が最も多く658件、続いて心臓内科が468件、小児科が465件、産婦人科が427件と続きました。どうしても耳鼻咽喉科と小児科は科の特性のためか直接紹介状を持参する患者さんが多くなるようですが、より当相談室を経由するように働きかけているところです。

診療所からの検査依頼の件数の内訳では、CTが492件と最も多く、超音波の358件と続いていました。

次に初診患者さんにおける診療所からの平成27年度の紹介率は55%前後で、逆紹介率(紹介患者さんの治療後に診療所に戻す率)は100%を超えていました。

また平成27年度の在宅復帰率(自宅または介護施設への退院)は90%を超えていました。

以上のように当院は急性期の病院として、地域連携相談室が中心となり、紹介患者の受け入れ、退院患者の紹介等をスムーズに行えるように努力しておりますので、よろしくお願い致します。



健康教室のご案内

当病院では、健康への正しい知識を深める機会として、毎月2週にわたって健康教室を開催しております。
医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等が分かりやすくお話しします。
どなたでも無料でご参加いただけます。

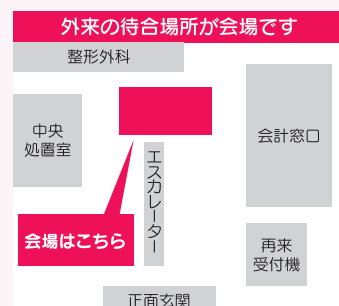


場所 外来棟1階ホスピタルモール
(エスカレーター裏側)

時間 11:30~12:00

予約 予約はいりません。
どなたでも無料でご参加いただけます

※開催日など詳しくは、ホームページやチラシをご覧ください。



column

『 院 内 助 産 』

周産期医療センター 4階南病棟 看護師長
母性看護専門看護師 白井 紀子

2008年からの厚生労働省の推進事業により、全国で院内助産システムを導入している施設は100施設以上に増加しています。JCHO北海道病院においても2013年より院内助産“ドルチェ”を開設し、2015年度は11人の赤ちゃんが産声をあげました。

当初、我が国における院内助産システムは、周産期における医師不足の問題から医師の増員を待たずに、院内にいる助産師を活用して産科病棟を存続させるための取り組みとして導入されました。近年では助産師の専門性を活かした取り組みとして、通常に分娩を取り扱っている病院施設においても院内助産システムが導入されており、当院の取り組みもこの中に位置づけられます。おそらく、すでに院内助産を行っている札幌近郊の4病院の中で、純粋に後者の理由により院内助産システムを組織的な取り組みとして始めた病院の筆頭はJCHO北海道病院でしょう。

加えて、JCHO北海道病院のそれは、地域周産期母子医療センターが持つハイリスク妊産婦に対応する機能をベースに運営されているところに特徴があります。院内助産とは『緊急時の対応ができる医療機関において、正常経過の妊産婦のケア及び助産を助産師が自立して行うもの』と定義されていますが、まさに『緊急時の対応』ができることが最大のメリットであると思います。ある研究によると、院内助産を利用している妊婦が期待することとして「緊急時は必要な医療が受けられる」「助産師外来で健診した助産師が分娩介助する」という内容が上位をしめています。そこには、より医療介入が少ない自然なお産の基礎に『安全なお産の保障』と『信頼できる人に』というニーズがあると思います。

我が国の初婚年齢(2014年)は、男性31.1歳、女性29.4歳です。晩婚化の影響もあり、合計特殊出生率(2014年)は、全国で1.42、北海道はさらに低く1.27、第1子出生時の母親の平均年齢は30.6歳になっています。つまり、多くの女性が、一生のうち1回の出産を、妊娠出産によるリスクを背負いやすい時期に経験する時代になっていると言えます。限られた出産の機会を安全で満足のいく出産にしたいという妊産婦さんに、JCHO北海道病院の院内助産を活用していただきたいと思います。専門職の方も興味がおありでしたら中を見に一度お越し下さい。



院内助産の施設

新任医師のご紹介

JCHO Hokkaido Hospital



呼吸器内科 堀井 洋志 (ほりい ひろし)

呼吸器内科の堀井洋志と申します。医師としては3年目になりますが、呼吸器内科医としては1年目の新米です。まだまだ経験も足りず至らないところは多いと思いますが、日々研鑽を積んで成長し、地域の医療に貢献できればと考えています。そして明るく元気に、気軽に相談できる医師を目指し頑張りたいと思います。



小児科 亀田 まき (かめだ まき)

地域子どもたちとご家族が元気に安心して過ごせるように、お手伝いさせていただきます。札幌での診療は初めてですが、院内そして他の医療機関の方々と連携して、より良い医療を提供できるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。



外科 敦賀 陽介 (つるが ようすけ)

4月から外科に着任いたしました敦賀陽介と申します。こちらに赴任する前は北大病院消化器外科Ⅰで肝胆膵外科を専門にしていました。当院では、肝胆膵外科のみならず消化器外科全般の診療に携わります。久しぶりの市中病院の回転の速さにいささかまだ体がついてきていませんが、地域の方々に安心できる医療を提供すべく、さらなる研鑽を積んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。



整形外科 岩崎 美憲 (いわさき よしのり)

この度JCHO北海道病院整形外科に勤務させて頂くことになりました岩崎美憲と申します。平成8年に北海道大学整形外科に入局し、帯広厚生病院、名寄市立病院、市立札幌病院、釧路労災病院等を経て、前任地の岩見沢市立病院より異動して参りました。整形外科の中でも下肢疾患（膝関節）を中心に、地域医療に貢献できるよう診療させて頂きたいと思っております。今後とも宜しくお願い致します。

新任医師のご紹介

JCHO Hokkaido Hospital



産婦人科 小山 貴弘 (こやま たかひろ)

北海道大学病院産科より異動してきました小山貴弘と申します。出身は札幌で、出身大学は北海道大学です。これまでに函館、苫小牧、旭川などでも仕事をさせて頂きました。専門分野は周産期医療ですので、地域の周産期医療のために少しでもお役に立てたらと思っています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



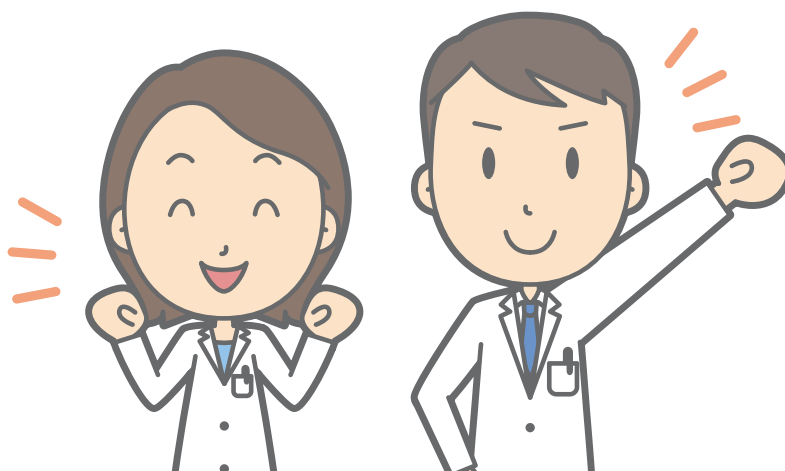
耳鼻咽喉科 太田 亮 (おおた りょう)

4月から耳鼻咽喉科で勤務している太田亮と申します。卒後17年目で、前任地の苫小牧王子総合病院には6年居りました。主に甲状腺・副甲状腺・耳下腺などの頸部手術や鼻内内視鏡手術を行っております。合理的かつわかりやすく、安全な医療を提供出来るように努めます。私生活では昨年からマラソンを始めましたが、暑いのが嫌いなので秋の札幌マラソン参加を狙っています。皆様、宜しくお願いします。



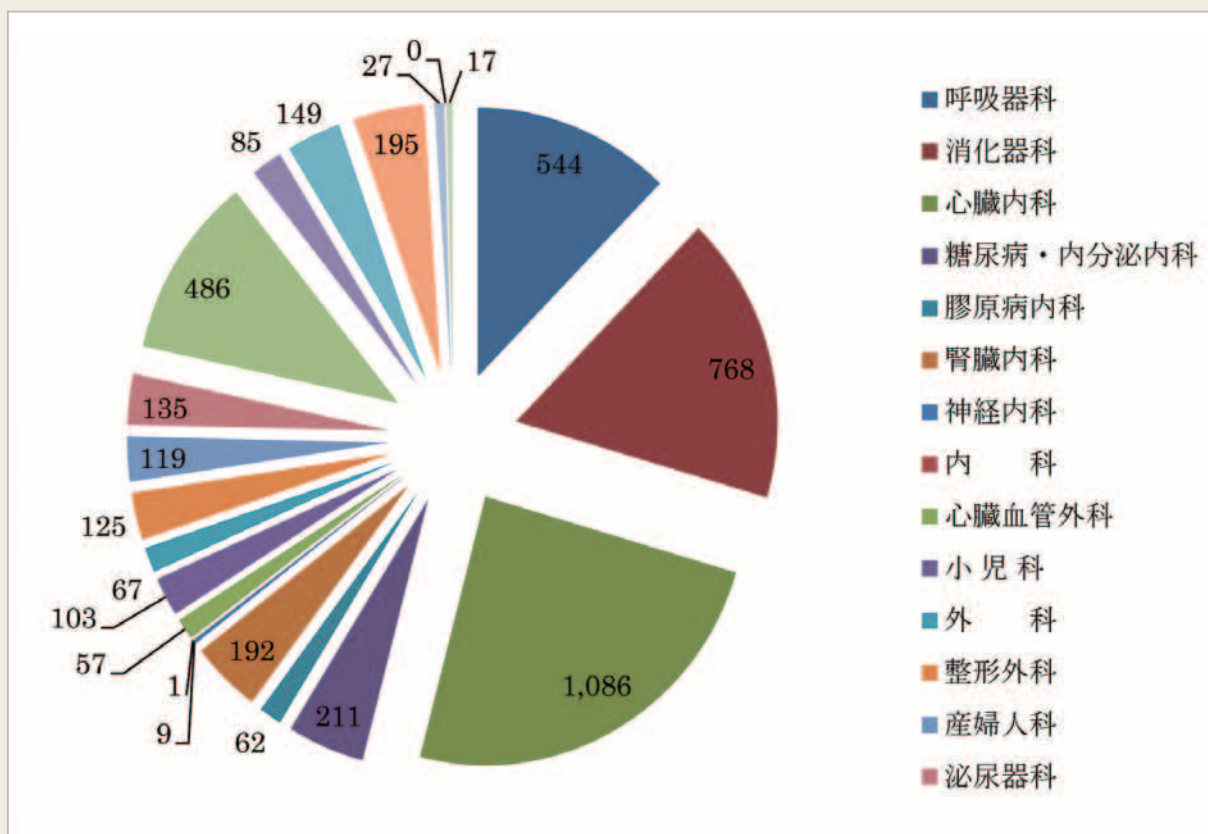
皮膚科 佐藤 有紀 (さとう ゆき)

皮膚科の佐藤です。札幌医科大学皮膚科学教室より転任してまいりました。当院には、平成23年度に続き2度目の赴任となります。患者さんやご家族にとってよりよい医療を目指し、温かい診療を心がけております。日々研鑽してまいりますので、よろしくお願いいたします。

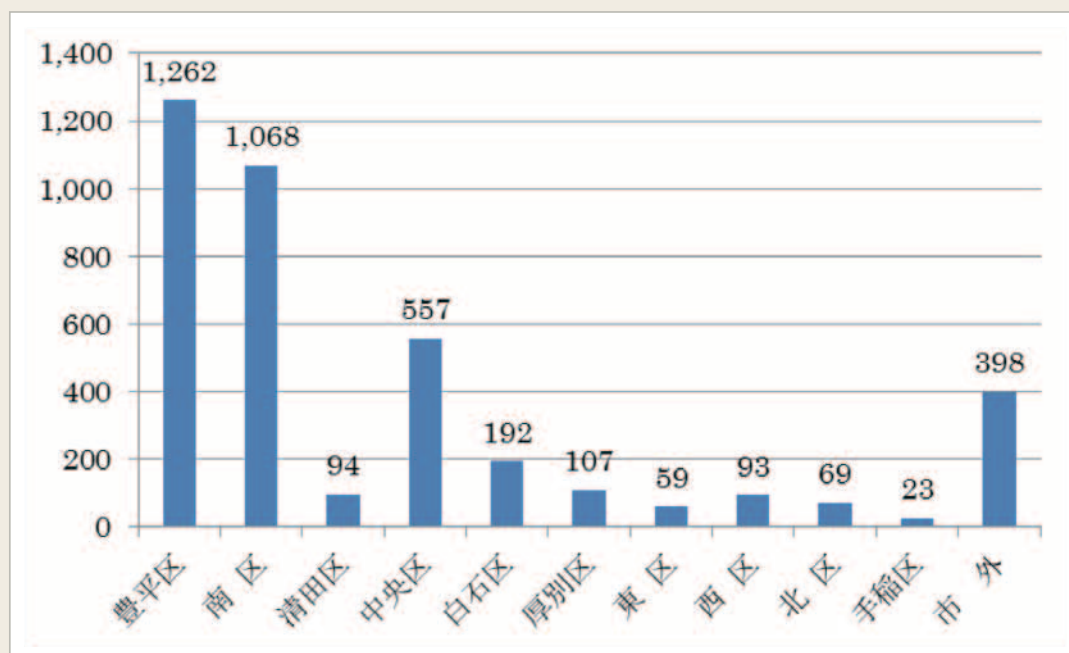


地域連携相談室より 平成27年度利用状況報告

診療科別利用状況です。平成26年度の利用件数は3,946件、平成27年度の利用件数は4,438件で皆様のご協力により、492件利用件数が増えています。



利用会員(医療機関数)



症例検討会のお知らせ

JCHO北海道病院では、地域の先生方との研修・交流の場として症例検討を中心とした勉強会を開催しています。

第43回

リバーサイド消化器懇話会

日 時:平成28年7月12日(火) 18時30分～

場 所:JCHO北海道病院 3階講堂

詳細は地域連携相談室までお問い合わせください。

研修会を実施しました

第2回 札幌南腎臓懇話会

日 時:平成28年2月4日(木)

場 所:当院講堂

参加者:院内15名 院外37名

講 演:『透析体液貯留と除水の原則とテクニック』

JCHO北海道病院院長

河田 哲也



第42回 札幌南呼吸器懇話会

日 時:平成28年2月17日(水) 18:30～

場 所:当院講堂

参加者:院外12名 院内8名

講 演:『忘れた頃にやってくる～ANCA陽性血管炎の肺病異変』

ちあき内科・呼吸器科クリニック

濱松 千秋先生

JCHO北海道病院

呼吸器センター

秋山 也寸史先生



北海道OCT研究会

日 時:平成28年3月11日(金) 19:00～

場 所:当院講堂

参加者:院外27名 院内11名

講 演:『OCTからDESを考える～DESは進化しているのか?～』

小倉記念病院 藏満 昭一先生



第42回 リバーサイド消化器懇話会

日 時:平成28年3月15日(火) 18:20～

場 所:当院講堂

参加者:院内35名 院外16名

講 演:『がん薬物療法の新しい動向』

北海道大学大学院

医学研究科内科学講座

腫瘍内科学分野

秋田 弘俊教授



災害救急指定日

平成28年7月 5日(火)

7月17日(日)

8月 2日(火)

8月22日(月)

※災害救急指定日は、やむを得ぬ事情により変更する場合があります。毎日の新聞紙等でご確認ください。

JCHO北海道病院イベント情報

JCHO北海道病院夏祭り

日 時:平成28年7月23日(土) 11:00～15:00

場 所:JCHO北海道病院附属介護老人保健施設



JCHO北海道病院

〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3-18

TEL 011-831-5151(病院代表) URL <http://hokkaido.jcho.go.jp>

〈医療機関専用：地域連携相談室直通〉

TEL 0120-515-830 / FAX 011-815-1005



↑QRコード読込で
病院ホームページへ





JCHO北海道病院 膠原病内科のご紹介

シェイコー

JCHO北海道病院 膠原病内科部長 堀田哲也

平成28年7月1日付でJCHO北海道病院の膠原病内科に赴任した堀田哲也と申します。私は平成6年に大学を卒業後、北海道大学病院内科IIやその関連病院で一般内科研修を行い、その後リウマチ・膠原病を専門分野とし、主に大学病院でリウマチ・膠原病の診療、教育、研究に携わってまいりました。このたびご縁があってJCHO北海道病院に勤務することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

膠原病内科が対象とする疾患としては、最も多い関節リウマチのほか、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、多発性筋炎・皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、各種血管炎症候群、抗リン脂質抗体症候群、成人発症スティル病、ベーチェット病、血清反応陰性脊椎関節症、IgG4関連疾患などがあげられます。その他に原因不明熱の鑑別診断も院内他科の協力のもと行っております。

最も多い関節リウマチに関しては、血液検査や画像診断を組み合わせ、できるだけ早期に診断し、活動性や合併症を考慮したうえで、メソトレキサートや生物学的製剤を用いた適切な治療を早期に開始し、そして安全に継続していくよう心掛けて診療にあたりたいと思います。

近年、関節リウマチ以外の膠原病の予後も改善しましたが、依然として難治性の病態も多く存在します。全身性エリテマトーデスや血管炎症候群に伴う腎炎や、各種膠原病に合併することの多い間質性肺炎などは、ステロイド単独では寛解導入や寛解維持が難しく、ステロイドに加えて免疫抑制剤を併用して治療を行っています。

また、膠原病の治療は長期にわたるため、長期的な予後やQOL(生活の質)を考慮した診療を行っていきたいと思います。膠原病の治療に広く用いられるステロイド剤では、感染症、消化性潰瘍、骨粗鬆症、糖や脂質代謝異常など、ステロイド以外の免疫抑制剤でも感染症のほか様々な副作用、合併症が起こることもあり、これらについても十分注意して診療を行っていきたいと思います。

関節痛、レイノー現象、皮疹、発熱などの症状が持続したり、リウマチ因子や抗核抗体などの自己抗体が認められるなど、リウマチ・膠原病を疑うような症状、検査値異常がみられる場合はぜひ膠原病内科をご紹介いただければ幸いです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。